

平成7年度 大阪府女性基金

プリムラ奨励賞

コマーシャルの中の 男女役割を問い直す会

世話人

小川真知子・吉田清彦

活動歴

- ▷ 昭和59年(1984)
世話人5人で発足
会員制をとらず、会報の読者を通じて活動を展開。
- ▷ 毎年度、上半期と下半期の2回、テレビコマーシャルコンテストをアンケート調査により実施。(現在まで23回実施)
- ▷ コンテスト結果を詳細に記録した会報を原則として年1回発行。
- ▷ 平成7年(1995)
10年間20回分のコンテスト結果を掲載した10周年記念号を発行。

【受賞理由】

コマーシャルの中の男女役割を問い直す会は、1984年(昭和59年)に創設され、男女平等の視点からメディアの中の性差別を検証するため、アンケートによる「なかなか好感CMベストテン」や「そろそろやめてCMワーストテン」の発表など、ユニークな活動を行っている。

また、CMの受け手と作り手との対話・交流をめざし、単にCMを批判するだけでなく、メディアの作り手や送り手に改善の方策を提案する「提案型」の運動を展開している。

日常生活の中に繰り返し流れ込むコマーシャルの内容が、女と男の固定的な役割分担を表現したものであれば、受け手は知らないうちにそうした意識を持ってしまう恐れがあり、特に子どもたちに与える影響は大きいものがある。

表現は、フェミニズムの分野でも比較的新しい研究分野であり、女性差別的な表現について確たる自主基準を持たない日本のマスコミや広告業界へ波紋を投げかけた同会の活動は、大変意義深いものがある。

同会の活動の成果は、関係業界や市民の間に着実に浸透しつつあり、固定的な性別役割分担意識の解消に、大きく寄与するものであり、男女平等の実現に今後一層の活躍が期待できる。

大阪府女性基金 プリムラ賞について

プリムラは、大阪の花「さくらそう」のことで、この賞が「さくらそう」のように広く府民に親しまれるようにとの願いをこめて、また、プリムラの花言葉が「希望」であることから、男女協働社会実現への希望をたくすという意味をこめて「プリムラ賞」と名づけた。

